第460号
2016年3月15日
（毎月15日発行）
1部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

JR貨物労組

日本貨物鉄道労働組合
〒114-0013
東京都北区東田端1－16
JR貨物田端信号場駅5F
☎NTT 03-3819-7071
JR 054-2901～3
発行人　相澤武志
編集人　藤田尚輝

組合員の努力で3.26ダイヤ改正を安全に移行させよう

不安を感じたら列車を止めよう

全国初の新幹線との共用走行開始

まもなく3月26日に平成28年3月ダイヤ改正を迎えます。JR貨物労組組合員の力を結集しすべての職場は安全第一でダイヤ改正を移行させましょう。その際少しでも不安を感じたり、作業に自信がないときは躊躇することなく列車を止めて安全の確認を行いましょう。

今ダイヤ改正は北海道新幹線開業に伴い一部区間での貨物列車と新幹線の共用走行を開始します。当該区間の組合員だけではなく全国の職場が盤石な体制で取り組んでいます。また、ダイヤ改正では輸送ニーズの高い首都圏～九州向けの列車の輸送力増強や、トラックドライバー不足による荷物を見込んだ関東～関西間の速達化などモーダルシフトをより一層推進していくこととしています。

安全の徹底を

ダイヤ改正は平成28年度末の鉄道事業部門の黒字化に向けて、JR貨物の商品価値を高める最後の施策ともいえます。荷主のニーズに合わせた列車体系が構築され、その列車に荷物をいかに積載するかは経営責任です。私たちはその商品をいかに安全に目的地に届けるかが重要であり、運転部会、営業部会、技術部会、施設電気部会、管理部会に結集するすべての組合員の協力が必要となります。全組合員の努力により今ダイヤ改正を無事に移行しましょう。その際仕事中に少しでも不安を感じたら躊躇せずに列車を止めて安全確認を行うように徹底してください。不安や分からないまま列車を運行して、事象につながってしまってはいけませんので必ず確認をお願いします。

北海道新幹線と合流

青函職場を激励

ダイヤ改正に先立ち、北海道新幹線との共用走行のため事前から教育や訓練などを受けている、五稜郭支部と青森支部に激励行動を行いました。

三線軌条で青函トンネルへ

激励行動は2月23日、税弾丸往復添乗となりました。

田書記長と村上業務部長が鎌田青森支部長の案内により青森総鉄に行きました。

往復とも五稜郭機関区の組合員が乗務し、確実な基本動作により単調になりがちな長大な青函トンネルでの乗務を安全に運転している姿が印象的でした。

その後3059列車にて青函トンネルを添乗し五稜郭支部を激励しました。その後すぐに8050列車に添乗し青森総鉄に戻るという

上り8050列車 池澤運転士

下り3059列車 中村運転士

たしろかおる議員 国会だより

暖冬と言われながら、日によって寒暖の差が激しく、正に気候変動を肌身で感じる今冬でした。また、インフルエンザも猛威を振るう中、組合員の皆さんには、体調管理を十分留意しながら春闘を闘ってほしいと思います。

さて、いま全国をまわっていると、平成一桁採用のミドルが、組織の中核を担っていることを実感します。その平成のリーダーから、「今の若い人は政治意識が低くて」という話しを良く耳にします。私も二十代の頃は、「今の若い人」に負けず劣らず政治には興味がありませんでした。

そんな若かった政治意識の低い「たしろかおる」に対して、「お前も俺も労働者だ。職を失えば直ぐに食う物にも困り路頭に迷う。その立場から物を考えれば、評論家みたいに政治が見られなくなる」と粘り強くかかわり続けてくれた職場の先輩がいたからこそ今の私があるのです。

春闘の職場議論で賃上げ議論をする事は前提ですが、労働者としての自分は社会的にどういう立場に立っているのか？立たされているのか？労働組合とは、歴史的にどのような変遷を辿って現在に至っているのか！？改めて、特に若い組合員と議論してみてはいかがでしょうか？「そんなのいつもやっているよ！」という声が聞こえてきそうです。でも、その事が自覚できた若者は、自ずと自分はだれと対峙すべきなのか分かってくるはずです。

若者に、現在起きている永田町の政治を政治として語ってもおそらく政治意識は高まらないと思います。職を失うと、一瞬にして路頭に迷う自分達。一度戦争が起きれば、真っ先に第一線に送られる立場にいる自分達を、春闘の議論を通して粘り強く後輩達に伝えてほしいと思います。私も、粘り強く共に頑張ります！

平和を守る！政治を変える！社会を創る！

参議院選勝利！
未来を切り拓く4・3大集会

と　き：4月3日（土）　ところ：大井町・きゅりあん　規　模：1000名

会社は蟻に学ぶべき！

マイ・ターミナル

先日、テレビを見ていたら面白いが笑えないことをやっていた。働きアリは、8割が働いて2割がサボっていると。え～働きアリがと思った。働きアリは全員が必死に働いているとばかり思っていた。気になったので後から調べたら、いろいろな説があった。2割が良く働く蟻で、6割が普通の蟻で、2割が働かない蟻だそうだ。いやいや、8割が働かない蟻という説もあった。解かったことは、アリの個体は、「閾値」を持っていて、その値が個々バラバラということだ。閾値とは、ある刺激に対して行動を起こすのに必要な刺激量の限界値とのこと。

テレビでも言っていたが、よく働くアリだけを集めて、アリの組織を作ってみると、なぜかまた働かないアリが出てくる。何回やっても同じだそうだ。みんながみんな〝働き者〟で頑張って働いちゃうと、組織が存続できなくなるようだ。なんとアリの社会でも過労死があって、よく働くアリは早死にしてしまう。みんながみんな頑張って過労死してしまったらその組織はそこで崩壊する。アリも働けば疲れるし、過労で動けなくなる。だから「働かないアリ」を「働くアリ」が疲れて動けない状況や、突発的に生まれる仕事、状況の急激な変化に備えて「予備の労働力」として蓄く組織になっているようだ。

会社よ、少しは蟻の社会から学ぶと良い。人に投資もせず、効率化を極めれば優秀な人材がどんどん流失し、組織が崩壊してしまうことを！

（M）